

へいわ
の学校



令和7年度

へいわの学校～修学旅行 (広島派遣事業)報告書



鎌倉市

もくじ

はじめに	1
へいわの学校～修学旅行について	2
第1回事前学習会	5
第2回事前学習会	6
広島訪問プログラム旅程	8
事後学習会	11
報告会	12
修学旅行生からのメッセージ	13
編集後記	29
アルバム	30

はじめに

鎌倉市は昭和33年（1958年）に全国に先駆けて平和都市宣言を行いました。宣言には、さきの戦争の経験から、同じ悲しみを受ける人を一人も出してはならないという思いが込められており、本市は、宣言に込められた先人たちの祈りや思いをしっかりと後世に伝えていくため、毎年、平和推進事業を実施しています。特に若い方を中心に参加者が自ら平和の大切さについて考える小・中学校への出前講話をはじめ、音楽や朗読など様々な視点を取り入れた「へいわの学校」など、平和の大切さを訴える取組を進めてまいりました。

今年、広島・長崎の被爆から80年を迎えました。本市は、この節目の年の新たな取組として、過去の悲劇を一層心に刻み、未来に向けて平和のために自分たちには何ができるのかを考え学ぶ機会となる『へいわの学校～修学旅行』を実施し、私自身も小学生6人、中学生6人の計12人の子どもたちとともに、被爆地である広島を訪問し、改めて平和を希求する市民の思いと核兵器のない平和な社会を実現することの大切さを認識しました。現地では、子どもたちが事前に広島や原爆について調べ、真剣に向き合っている姿勢が言葉や行動から伝わってきて、その姿を見て、未来への明るい希望を感じることができました。この修学旅行を通じて、子どもたちは様々な経験を積み、成長したことでしょう。自分の中にあるへいわの芽（平和を築く力）を大切に、平和への思いを身近な人に伝え、小さなへいわの芽を育て、輪を広げてくれることを期待しています。そしてその小さなへいわの芽がいつか大きな花を咲かせることを願っています。

最後に、本事業の実施にあたり、子どもたちの活動を側で支えてくださった保護者の皆様、子どもたちを受け入れてくださった広島市を始め関係者の皆様の多大なる御尽力に改めて感謝申し上げます。これからも、鎌倉市は、平和意識の醸成に努め、平和を基調とした誰もが安心して自分らしく暮らせる社会の実現に向けて取り組んでまいりますので、引き続き御協力を御願いたします。



鎌倉市長 松尾 崇

へいわの学校～ 修学旅行について

事業概要

鎌倉市は、昭和33年に全国に先駆けて行った『平和都市宣言』に基づき、平和推進事業を実施しており、市民の平和意識を醸成（じょうせい）するための「へいわの学校」をテーマにした取り組みを行っています。

令和7年は戦後80年の節目の年であることから、次代を担う子どもたちが平和記念式典に合わせて被爆地（ひばくち）である広島を訪問し、平和の尊さや平和のために自分にできることについて学び、考える機会として『へいわの学校～修学旅行』を実施しました。訪問後には、子どもたちをはじめ幅広い世代の市民が平和について考えるきっかけとすることを目的として子どもたちが体験して感じたことを市民向けの報告会で共有しました。今年も、公募で選ばれた年齢も学校も様々な子どもたち12名が参加しました。

平和都市宣言



全文：われわれは、日本国憲法を貫く平和精神に基いて、核兵器の禁止と世界恒久平和の確立のために、全世界の人々と相協力してその実現を期する。多くの歴史的遺跡と文化的遺産を持つ鎌倉市は、ここに永久に平和都市であることを宣言する。

昭和33年8月10日鎌倉市

本庁舎前にある平和都市宣言石碑

この石碑の宣言文は本市名誉市民である平山郁夫氏に揮ごうしていただいたものです。

修学旅行生名簿

氏名	学年
駒井 ほのか	小学5年生
小池 凜	小学6年生
駒崎 陽	小学6年生
南里 学利	小学6年生
野村 歩誠	小学6年生
渡邊 佳穂	小学6年生
石塚 世和	中学1年生
小菅 凜音	中学1年生
伊藤 愛	中学2年生
野田 結子	中学2年生
茂木 麗	中学2年生
廣川 佑	中学3年生

事業全体
スケジュール

日程	内容
7月19日（土）	保護者説明会・ 第1回 事前学習会
7月28日（月）	第2回 事前学習会
8月5日（火） ～8月7日（木）	広島訪問
8月12日（火）	第1回 事後学習会
8月19日（火）	第2回 事後学習会
8月25日（月）	第3回 事後学習会
8月30日（土）	報告会

第1回事前学習会

日時：7月19日（土）

14時～17時

場所：福祉センター

◆自己紹介、グループ名を考える

◆グループディスカッション

テーマ：第二次世界大戦中の神奈川県と鎌倉市について

第二次世界大戦の概要や地元の被害状況などを勉強しました
鎌倉は横浜のような大規模な空襲被害を受けていませんが、戦争と無関係だったというわけではありません
戦争に必要な兵器などを作る工場や施設がありました



◆フィールドワーク

【平和】にまつわるスポット巡り

駅前にあるウォーナー博士の顕彰碑や市役所敷地内にある平和の木などを巡りました



【平和の木】は、昭和24年5月3日に植樹されたもので、二度と戦争を繰り返さないという決意を込めて、「平和の木」と命名されました

第2回事前学習会①

日時：7月28日（月）
10時～12時
場所：市役所本庁舎

◆被爆者の方とお話しよう

鎌倉市在住の被爆者の方（中村さん）とお話しました



神奈川県原爆被災者の会
鎌倉いちょうの会
中村郁子さん

10歳の時に学童疎開先で広島市内に原爆が投下されるのを見た。その後、学校に運び込まれる被爆者の介護を手伝った。次世代に「核兵器の恐ろしさと戦争の愚かさ」を伝えるために活動している。



鎌倉市では「出前講話“平和”」という事業で、市内小中学校等を対象に被爆者の方からお話をきく機会を提供しています

今回は、修学旅行のために市役所にお越しいただき、子どもたち一人ひとりの質問に丁寧に答えていただきました

原爆投下直後の広島の様子を実体験を踏まえてお話いただくことで、原爆の恐ろしさや命の大切さについて、深く考える機会になりました

第2回事前学習会②

日時：7月28日（月）

13時～15時

場所：市役所本庁舎

◆グループディスカッション①

テーマ：今、平和でない状態とはどのようなことがありますか
それはどうしたら解決できると思いますか

◆グループディスカッション②

テーマ：グループの学習目標を考える



<平和の鐘>



<1/2メガネ>



<おりづる>

「平和でない状態」と聞くと、多くの人が「戦争」を思い浮かべるかもしれません。しかし、もっと身近な視点から考えると「いじめ」や「虐待」がある状態も平和とは言えないのではないのでしょうか。それでは、こうした「平和でない状態」を解決するためには何ができるでしょう。

子どもたちが考えた解決策には「話し合う」「否定しない」「声をかける」といった、相手を思いやる姿勢が多く見られ、平和を築くためには「思いやり」がとても大切であることを改めて考えさせられました。

グループで意見を出し合い、解決方法を考えました。
最後には、他のグループとも共有しました。

◆グループの学習テーマ

1/2メガネ：原爆投下時から今まで何が起きたのか知り、自分たちに
できることを皆で考える

おりづる：自分たちがこれから戦争を起こさないようにするために何が
できるのかを学ぶ

平和の鐘：原爆と戦争の怖さを学ぼう

広島訪問プログラム旅程

1日目（8月5日）

鎌倉市役所集合⇒（バス🚌）⇒新横浜駅⇒（新幹線🚅）⇒広島駅到着
広島駅⇒（バス🚌）⇒平和記念公園⇒（バス🚌）⇒ホテル

- ・平和記念公園散策や平和記念資料館等の見学
原爆ドームだけでなく、爆心地とされる島内科病院の見学も行いました
- ・ミーティング
ホテルで夕食を取った後は、1日の振り返りの時間としてミーティングを行いました
また、翌日行う灯籠流しのため、灯籠にメッセージを書きました
- ・この他にも、オリヅルタワーで折鶴を折ったり、プライドオブヒロシマ展も見学し、
広島の復興の歴史も学びました

2日目（8月6日）

ホテル出発⇒（バス🚌）⇒平和記念式典参列⇒（徒歩）⇒こども平和サミット参加⇒
（バス🚌）⇒平和学習の集い参加⇒（バス🚌）⇒灯籠流し⇒（バス🚌）⇒ホテル

- ・平和記念式典参列
- ・第1回全国こども平和サミット参加
- ・第1回全国平和学習の集い参加
全国様々な自治体から集まった児童・生徒たちとグループディスカッションを行いました
- ・灯籠流し
自分たちの思いを込めた灯籠に火を灯し、元安川に流しました

3日目（8月7日）

ホテル出発⇒（バス🚌＋フェリー🚢）⇒宮島⇒（フェリー🚢＋バス🚌）⇒広島駅⇒
（新幹線🚅）⇒新横浜駅⇒（バス🚌）⇒鎌倉市役所到着

- ・宮島 厳島神社見学
戦禍による大きな被害を免れた世界遺産である厳島神社を見学しました

第1回全国子ども平和サミット



◆全国子ども平和サミット

被爆者の方（梶矢文昭さん）による講話や原爆詩の朗読、
参加自治体（9団体）による平和への取組発表
参加者数：1,202名（64自治体（20都道府県））

『子ども平和サミット』では、広島や他の自治体で行われている平和活動について学びました。広島では戦後から一貫して平和教育が行われており、多くの市民が平和の大切さを次世代に伝える活動を続けています。また、戦後80年を迎え、体験談を話せる被爆者の方も少なくなっている現状を踏まえて、若い世代が代わりに語り継いでいく事業や被爆者の方から体験談を聞いた地元の高校生が絵画を作成したり、体験談を基にしたVR動画の作成など、様々な方法を用いて、原爆の恐ろしさを次世代に伝えていくための工夫を行っていました

また、若い世代が被爆の実相やファシリテート技法の研修を積み、平和記念公園などで海外から来た観光客などを対象にガイドボランティアを行っているユース・ピース・ボランティアの存在も印象的でした

今回鎌倉市も参加した「平和学習の集い」では、ファシリテーターとしての役割を担うため、広島県内外から集まったユース・ピース・ボランティアが300名以上も参加していました

第1回全国平和学習の集い

◆全国平和学習の集い

被爆者の方（八幡照子さん）による講話

参加者によるグループディスカッション

参加者数：1,446名（72自治体（22都道府県））

※8月5・6・7日の3日間、7会場に分かれて実施。

1会場あたり150名から300名が参加



『平和学習の集い』では、参加した子どもたちが6人ずつのグループに分かれて、テーマに沿ってグループディスカッションを行いました

自分たちの地域の被害状況から平和でない状態の解決策などを話し合い、いくつかのグループは発表も行いました

鎌倉市から参加した子どもたちは、当日初めて会う人たちとのやりとりに緊張をしている子もいれば、臆せず自分の意見をしっかり話している子もいて、引率した職員たちはソワソワしながら見守っていました

学習の集いの後、子どもたちは「緊張したけど、とても勉強になった。」「色々な地域の人たちと話ができて良かった。」など、とても好評でした。疲れた顔をしつつも、晴れやかな顔をしていたことが印象的でした

※集合写真の黄緑色のシャツを着ているメンバーは、ユース・ピース・ボランティアの皆さんです

第1回～3回事後学習会

第1回（8月12日（火）13時～16時 市役所本庁舎）

◆振り返り

2泊3日の広島訪問を経て、広島で何を学んだか整理しました

◆わたしへいわ宣言の作成

報告会で「平和のために、いま自分に出来ること」を発表するため、オリジナルの「わたしへいわ宣言」を作成しました



第2回（8月19日（火）13時～16時 市役所本庁舎）

◆報告会準備

8月30日の報告会に向けて、自分たちが学んできたこと、伝えたいことを、どんな風に伝えるかなど話し合いました



第3回（8月25日（月）グループ毎に2時間 市役所本庁舎）

事後学習会はもともと2回の予定でしたが、広島を訪問し、平和について感じ学び得た多くのことを、報告会に来てくれる保護者や市民の方に、より分かりやすく伝えるために、1回追加しました
子どもたちの熱心な姿勢に職員も陰からサポートしました

報告会

日時：8月30日（月）

13時～15時

場所：市役所 講堂

- ◆修学旅行生によるグループ発表
- ◆ゲスト講話（宇治 香さん）
- ◆修学旅行生による「わたしへいわ宣言」

自分たちで作ったスライド資料等を使って発表した後、報告会に来てくれた保護者や市民の皆さんと質疑応答を兼ねた交流会を行いました。修学旅行生たちは、質問に上手く答えられるか不安そうな様子でしたが、どのグループも参加者の皆さんとの会話を楽しんでいました。今回の報告会は、修学旅行生最年少の駒井さんと一緒に司会を行ったり、報告会の最後には、修学旅行生を代表して最年長の廣川さんから、修学旅行を通じて自分たちが学んだことを伝えるなど、修学旅行生と一緒に作り上げました。



＊ゲスト講話講師＊

宇治 香さん

鎌倉原水協代表団として、令和7年8月に開催された被爆80年原水爆禁止世界大会に参加



修学旅行生からの メッセージ

1/2メガネ

- **メンバー**

ほのか・まなと・れい・たすく

(リーダー)

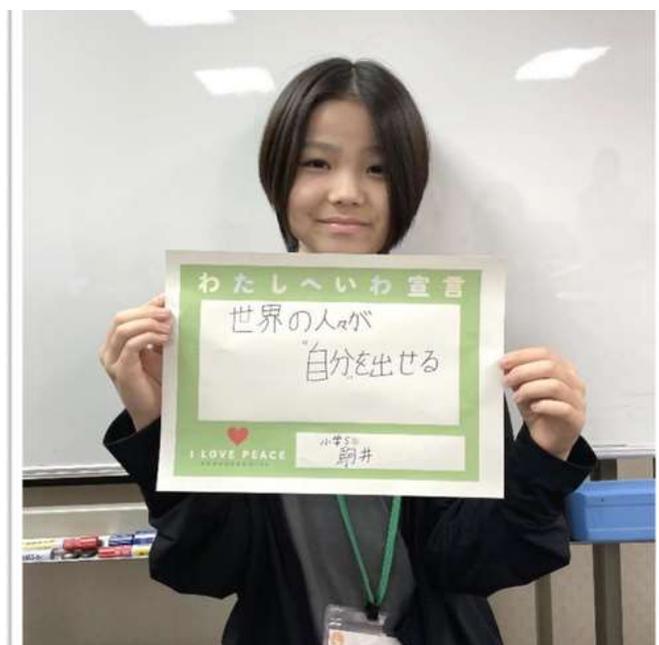
- **学習テーマ**

原爆投下時から今まで何が起きたのか知り、自分たちにできることを皆で考える



「平和を自分ごとに」 駒井 ほのか 小学5年

私は広島へ行き、原爆や戦争の悲惨さを感じました。一日目、資料館に行った際、原爆が投下される前と投下後の写真を見ました。きれいだった街が一瞬にして消え去ったのがよくわかりました。広島の高校生が被爆した方に話を聞き、その話をもとにして絵を書きました。その絵は皮膚がドロドロに溶けていたり、川に死体が転がっているものがありました。私はその場にいた訳でもないし、写真でもないのにたった一枚の絵で心が痛みました。他にも眼球が飛び出たり、背中にガラスが突き刺さったりしている絵を見て、体がゾワッとする位、衝撃を受けました。資料館には、原爆で変形したものや、粉碎したものが展示されていました。その中でも、特に心に残っているのはお弁当でした。お弁当箱は変形して、ボコボコでした。中に入っていたものは、黒焦げで、何かわからなくなっていました。原爆死没者追悼平和祈念館では、自分と同じ年齢で被爆した方を探することができます。検索するとたくさんの方が出てきました。この方たちはきっと、原爆で大火傷を負った人々の世話をしていたんだ、と考えました。多分親とも会えていないのに、看護にまわれるのはすごいと思いました。私はこの広島へ行った三日間で、今ある平和はとてもありがたいものだと感じさせられました。健康で美味しいものをお腹いっぱい食べられることは、当たり前ではなかったこと、平和はみんなの意識や行動で作られ、守られることを感じました。未来でもこの幸せを当たり前だと思い続けられるようにしたいです。だから、私は、身近な人に思いやりを持ったり、相手を理解して認め合うなど小さな平和を、日常に取り入れたいと思いました。



僕は「へいわの学校～修学旅行」に参加して広島を訪れることができ、とても貴重な体験をしました。

原爆ドームや平和記念資料館などを見学し、戦争や原爆によって多くの命が失われた事を学びました。

原爆ドームは爆心地に近いにもかかわらず、奇跡的に形を残しました。それは、戦争の悲惨さや平和の大切さを後世に伝えるために、あえて残されたように感じました。

平和式典では、世界中から平和を願って集まっている人達の姿がありました。僕はその時、核兵器はもう二度と使わないでほしいと願いました。被爆者の方の話を聞いて、実際に目の当たりにした人たちの体験は想像を絶するものだと思います。だからこそ、戦争を二度としてはいけないと思いました。

報告会では、みんなで話し合っまとめたことを発表することができました。自分の思いを伝えることは、緊張しましたがとても大切なことだと思います。

これからも友達や家族と仲良く過ごす事を大切にしていきたいです。そして、今回広島で学んだことを色々な人達に伝えることで、平和の大切さを広げていきたいと思います。僕は心から平和を願います。



「私たちの使命」 茂木 麗 中学2年

私は広島で、平和に対する深い願望を知りました。それは、多くの後悔や悲しみの上に立ち、今は当たり前前の平和な日本への愛おしさや幸せの元になるものでした。

資料館を見学し、被爆者の方々から聞いた当時の日本は想像できない姿でした。食べ物はなく皆が痩せ細り、問答無用で疎開や徴兵で家族は離ればなれにされ、皆怯えながら過ごしていました。

そして、8月6日広島に原爆が投下されました。これは、家族のために訓練をしていた子供も、子供の帰りを待つ親も、「ピカッ、ドーン」と一瞬で全てを跡形もなく吹き飛ばし、焼き焦がしました。そして、その後はあっという間でした。今まで勝利のために必死に頑張った国民の苦労は原爆が落とされてたった9日で政府が負けを認めあっけなく終わりました。

日本はこれほどの犠牲を払って闘う意味はあったのでしょうか。これには誰も答えられません。なぜなら、これは大昔からある「戦い」なのですから。これは私生活にも起こるケンカや言い争いから、世界で起こっている戦争までもです。でも、果たして私たちは自分の立場や意見を主張するためにぶつかり合い暴力をふるう必要があるのでしょうか。私はそうではないと考えています。私たちは人間だからです。私たちは話し合い、お互いを理解することができます。ですが、人間なのでムカついて暴力を使いたくなるかもしれません。それでも、それはお互いを傷つけ合うだけであり、解決はできません。そして、このままでは人間は過ちを繰り返すだけです。だからこそ、未来を背負っていく私たちは過去から目を逸らさず過ちを認め、言葉を使って対話をし、譲り合いこの馬鹿げた「戦い」をこの世代で止まらせるのです。それが、今後の未来で誰もが笑っていられるために私たちができることです。



「希求だけでなく行動を」 廣川 佑 中学3年

先日平和という言葉について辞書で調べてみた。争いがなく心配することがなく穏やかである事の2つであるそうである。

今の世の中に照らし合わせた時に、本当に平和と呼べる状況であろうか。戦争、紛争、差別などがあり決して平和とは呼べず、いつ自身に降りかかって来るか分からない恐怖さえもある。今後、みなが安心して幸せで生きられるよう、僕は胸を張って平和といえる状況にしたい。しかし、希求するだけでなく「行動」をしなければ達成はしない。その「行動」はどのようにすればよいのか、何が僕にできるのか、探るために広島へと向かった。

目にしたのは字や数値だけでは語れないモノや写真、被爆者体験談など、それらは悲惨さ、悲しさ、憎しみを伝えていた。また戦争と戦争をなくそうとする動きは長い間繰り返して起きていたことも知った。このサイクルが起きて僕たちが巻き込まれてしまったらと思うと「行動」をしなければとさらに強く感じた。

広島では出身地が違うものの平和を実現するという思いをもった者同士で意見交換を行い、現状把握やこれからすべきことを議論した。私はこの議論を通じて驚かされた。「周りの人たちに伝承する、語り合う」、「相手を尊重、理解する」など小さな「行動」だったからだ。広島に行くまでは大人になるまでできないのだとか、やるなら規模を大きくしなければならないなど所詮、自分にできることはほんの少力で、「行動」するまでが大変だと思っていた。しかし、ちりも積もれば山となるということがある通り、少しでも「行動」することが大切だと知らされた。

広島には「ヒロシマの心」という言葉がある。これは過去の歴史を悲観するだけではなく、二度と核兵器が使われる事がないよう核兵器廃絶を希求する市民の思いである。これを原点として多くの平和活動を行っている。大切なのは希求するだけではなく、少しでも「行動」をすること。それは、いずれ安心して幸せに生きられる平和な世の中が実現するからである。すること。それはいずれ安心して幸せに生きられる平和な世の中が実現するからである。



おりづる

- **メンバー**

めい・せな・はる・かほ

(リーダー)

- **学習テーマ**

自分たちがこれから戦争を起こさないようにするために何ができるのかを学ぶ



「広島への思い」 伊藤 愛 中学2年

修学旅行で初めて広島に行き、平和記念資料館や原爆ドームを見学しました。実際に広島に行き、被爆の悲惨さを伝える写真や遺品を見た時、教科書で学んだだけではあまり分からなかった戦争の辛さを感じました。中でも、資料館に展示してあった当時使われていた衣服や持ち物が焼け焦げた姿は、人々の命が原爆によってうばわれたことを示していて、胸がしめつけられる思いをしました。また、被爆者の方の体験談を聞いた時、「二度と戦争を起こしてはいけない」という被爆者の方の強い思いが心に響きました。戦争は国や建物がボロボロになるだけでなく、一人一人の未来をうばってしまうということを改めて実感しました。私たちが今、不自由なく生活できているのは多くの人々が平和を守ろうと努力してきたからだと思います。だからこそ、この平和を続けていくために、私たち自身が平和をつくりだしていかなければならないと感じました。また、修学旅行を通して平和は当たり前のものでなく、一人一人が意識して守っていくことが大切だと学びました。

私は日常の中で争いをさけ相手を尊重することを大切にしていきたいです。そして、今回学んだことを周りの人に伝え、未来へつなげていきたいと思います。広島での体験は、私にとって、かけがえのない経験になりました。



「平和を守ること、核兵器のない未来」 石塚 世和 中学1年

僕は「へいわの学校～広島派遣事業」に参加して、本当に行ってよかったと思います。いちばん印象に残っているのは、子供の平和サミットです。いろいろな市や学校から来た中学生と、「平和」について自分の思いを話し合えたことが、とても心に残っています。自分だけでは考えつかないことを知れたし、ほかの人の意見を聞いて、僕ももっと考えたいと思うようになりました。

式典で特に心に残っているのは、広島県知事の言葉です。知事は「核抑止」という考え方にふれ、核兵器を持っていれば戦争を防げるという意見があるけれど、それは本当に平和といえるのか、と問いかけていました。そして、核兵器が存在する限り、人類は常に脅威にさらされるのだと強く訴えていました。その言葉を聞いて、ただ戦争をなくそうと願うだけでなく、核兵器の問題をどうするかを考え続けることが大切だと感じました。

この広島派遣を通じて、広島への興味・関心がとても高まりました。資料館では被爆者の生々しい手紙や言葉を見て実際に被爆したひとがいるのだなと実感しました。原爆ドームや平和公園を実際に歩いたりして、教科書で見ていたことが現実なんだと実感できました。また、自分の意見をサミットのグループで発表したり、自信がもてるようになったと思います。緊張したけれど、終わったあと「やってよかった」という思いが強くなりました。

それから、友人との絆が強くなったことも嬉しかったです。長い時間一緒に行動して、お互いに助けたり励ましあったりして、あらためて友達って大切だと感じました。最後に、鎌倉市長と食事を囲めたこともすごく良かったです。市長さんが僕たちの話を聞いてくれたり、広島で感じたことを話したりする中で、普段とは違うあたたかさを感じました。

これからは、今回学んだ「平和を守ること」「核兵器のない未来」を忘れず、自分にできることを考え、行動していきたいです。この経験は、僕にとってとても大きな財産になりました。



「平和について考えたこと」 駒崎 陽 小学6年

僕は、この「平和の学校修学旅行」で、三つのことを学んだ。一つ目は、鎌倉も戦争に関わり、空襲を受け、平和へ向けて平和宣言をしていたということだ。自分の住んでいるところのことは知っているつもりだったけど、知らないことも多かった。また、記念碑や平和の木は、この地で戦争があったことを忘れないためにあるのだと考えた。

二つ目は、日本は世界に向けて「平和」を発信していることだ。広島で平和式典に参列し、色々な国の人たちが祈りを捧げていたり、原爆ドームの説明書きで原爆ドームは世界遺産に登録されていることを知って日本が平和を発信し、世界がそれを受け取っていることを知った。

三つ目は平和とはなんなのか、ということだ。被爆した方の話を聞いた時、「本当の平和とは人や国が対話することであり、決して軍事力に頼ったものではない。」と話していた。だから僕は、平和とは人が対話し、相手のことを知ろうとすることだと考えた。

今回の修学旅行に参加したことで、新しい友達がたくさんできた。また、十一人の仲間たちと意見を伝え合うことで理解を深めることができたことも心に残った。貴重な体験ができて、多くのことを学べたので、その学んだことを今後にも生かしていきたいと思う。



「広島修学旅行感想文」 渡邊 佳穂 小学6年

今回の広島旅行で私の記憶に残った思い出は、3つあります。1つ目は平和記念資料館です。原爆のことは少し知っていたけど、資料館で見て改めて原爆の苦しみを知りました。原爆の熱で形が変形したお弁当箱など原爆の恐ろしさを知れました。中には自分の体の状態がよくないなか他の人の救助をしていた人もいたのがすごいと思いました。2つ目はみんなで泊まったホテルです。朝、夜どちらともビュッフェでした。1日目の夜ごはんの蒸し牡蠣がおいしかったです。夜は1部屋に集まりカードゲームなどで遊びました。みんなと遊んでるとあっという間に時間が過ぎました。翌日の朝も早いので11時に解散しました。3つ目は宮島です。私たちが行った時は潮が満ちていたので厳島神社の下まではいけませんでした。けれど、遠くからでも美しく、とても迫力がありました。商店街で、お土産を買いました。島の人達は優しくて学生割引をしてくれました。

修学旅行全体を通して分かった事は広島の人達は協力し、助け合う事を大事にしていました。原爆の恐ろしさを多くの人に伝え、戦争を起こしてはならないなど、平和を広める行動をたくさんしていました。私も広島の人達を見習ってこれから平和について考え、行動していきたいです。



平和の鐘

- メンバー

ゆいこ・りおん・りん・あるま

(リーダー)

- 学習テーマ

原爆と戦争の怖さを学ぼう



「今回の修学旅行での体験」 野田 結子 中学2年

今回の修学旅行で体験したことで私が一番印象に残っているのは資料館です。資料館には被爆した時に被爆者が持っていた持ち物や衣服などの展示もありビリビリに破れたのとはまた違う重々しい雰囲気も痛々し雰囲気を放ちそれ以外にも影の残った壁などは本当にここに人がいたんだな、本当に影が消える暇もなく一瞬で命が消えたんだなって実感ができました。他にも黒い雨の跡が残った壁や被爆された方々の写真、被爆直後の風景を描いたイラスト、どのような後遺症が残るのかななどの展示がありました。黒い雨は墨汁や黒の絵の具で描いたのかと思うほどの黒さで、これを被爆した人たちは喉が渴いてた故に黒い雨を飲み、結果それが死につながる恵みと言う名の毒だとは思いませんでしたと本当に悲しい気持ちになりました。被爆者の方々の写真は発疹がでていたり皮膚が焼け爛れ骨が見えかけていたり、目に包帯を巻いてる人や小さな子が被爆しているものなどもあり、苦しそうで痛そうで言葉で表せないけど写真だけでも伝わってくる原爆の恐ろしさが本当に伝わってきて、イラストにはゾンビのように皮膚を垂らし腕を前にして街を歩き回る人々や熱いのを少しでも抑えるため川に飛び込み流れて死んでいく人たちのイラストなどもたくさん展示されていました。

私は、こんな事を二度と繰り返したくないです。人の命を一瞬で奪っていく核兵器やそれを使うことの発端となる戦争などは簡単に起こすものでもないし簡単に起きることでもない。人間はお互いの意見が違うと言い争ったり暴力で解決しようとする人もいます。だから、今の私では何か大きな行動を起こすことはできないけど小さなことでいいからこの地球に住んでる様々な人が幸せに暮らせるように、人種差別やいじめをなくしたり、誰かに少し優しく接する、困ってる人がいたら声を掛けたり、友達との関係性を大切にしたり、ちょっとしたことでいいから自分と周りの人が幸せに楽しく暮らせるように心がけて生きたいです。後は、今回の平和の修学旅行で私達にお話ししてくださった3人の被爆者の方々のように伝え方を工夫してこの時、何万の人々がどうやって一瞬にして命を奪われたのか、どれだけ苦しい思いをした人がいるかなど、被爆者さんのお話や

今回の修学旅行で学んだことを大切にこの先の人々にも伝えていきたいです。



「折り鶴に込められた思い」 小菅 凜音 中学2年

私が「へいわの学校」に参加して、一番強く感じたことは、実際にその場に行かなければ感じられないことがあるということです。

例えば、原爆ドームは実際にその場で見ると、とても大きくて今でも焦げた匂いがしそうで驚きました。曲がった階段や崩れたレンガなどから、原爆の威力を感じる事も出来ました。

原爆資料館では、原爆の犠牲になった人達の持ち物や当時の広島の様子が展示されていて、今自分が立っている場所で80年前に起きたことを知ることができました。

また、事前学習で広島や原爆の事を勉強できたことも、良かったと思いました。私は、事前学習の中でアメリカでは原爆投下が正しかったという考えがあることを知り、とても驚きました。そして、立場や国が違くと核兵器への考え方も違うのかという疑問をもちました。そこで、広島を訪れている他の国の人達に核兵器についてアンケートをしてみようと思いました。結果は10か国くらいの人達が回答をしてくれて、全員が「核兵器は必要ない」と答えてくれました。アンケートでは、答えてくれた人達にお礼として折り鶴を渡しました。お礼を折り鶴にした理由は、折り鶴が平和のシンボルになっていると感じたからです。折り鶴を渡すと全員が笑顔で受け取ってくれました。私は、このことで折り鶴の持つ力を実感することができました。「原爆の子の像」も両手で大きな折り鶴を掲げています。像のモデルとなった佐々木貞子さんが実際に折ったという折り鶴も原爆資料館で見ることができました。平和記念公園にもたくさんの折り鶴が飾られていました。私は、それを見て鎌倉に帰っても平和を願って折り鶴を折り続けたいと思いました。鎌倉にはたくさんの観光客が来ます。その人達に折り鶴を渡して、持ち帰ってもらえたら、広島から離れた鎌倉からでも平和を訴え続けられるのではないかと思います。そして自分の折った鶴が一羽でも多く世界に羽ばたけばいいなと思っています。



「学んだこと」 小池 凜 小学6年

今回の修学旅行で行った広島平和記念資料館等を通して感じた事は、広島平和記念資料館の被爆者の絵が生々しくて、最初は急いで観ていたから大丈夫だったのに、後から撮影した写真を見ているうちに気持ち悪くなってきた。原爆で腕や足が3倍くらいに膨れ上がって皮膚の色も赤鬼や青鬼のように変色して、目がまん丸で男女の区別もつかないような感じで、想像してみるとそんなに膨れ上がるものなのかと思うけど、展示してあったから本当にあったことだと考えると怖くなってきた。広島に行く前は、頭では本当にあったことだとわかっているけど、当事者じゃないし自分が生まれる何年も前のことだから実感がわいてないし、原爆の放射線で内臓が傷ついたり癌になったり、大変だったんだなと思ってはいたけど、広島で本物を見ると思っていた3倍くらい凄かったから、実感した。想像が深くなった。自分にとっての平和は8割くらい足りている時。足りてない時はお互いに手助けをして、周りの人と喧嘩しないようにしたい。力だけで解決しようとするやり方は戦争につながる。だから友達や家族とは話し合いで解決する。自分はあまり周りに影響があるような立場ではないから、それでも解決できなかったら、影響力がありそうな先生のような人達の力をかりて解決してもらうことも大切だと思った。自分がこんな考えを持つことができたのは親のおかげももちろん、鎌倉市役所の人たち、お話しをしてくれた被爆者の人たちや班の皆のおかげだから、関わっている人の努力や協力を無駄にしないようこの先行動してみようと思った。



「広島へ行き学んだこと」 野村 歩誠 小学6年

僕はへいわの学校に参加し、初めて広島へ行きました。原爆を聞いた事はありませんでしたが、あまりくわしく知らなかったし、知る機会もありませんでした。

原爆ドームを写真で見たことはありましたが、実際に見て原爆ドーム以外のものが、一瞬で吹き飛んだと思うと恐ろしくなりました。広島平和記念資料館では、実際に被爆した人の物が、沢山展示されていましたが、大勢の人が苦しんで今の自分と同じくらいの子供も、沢山犠牲になったことを知り、ショックを受けました。

今回へいわの学校に参加して被爆者の方の話を聞くことができました。原爆が投下された時の話を、実際に体験した人から聞く機会はなかなかないと思うので、とても貴重な体験だと思いました。「ピカッ」と光った後に起きたとても恐ろしくて悲しい話は、信じたくないくらいショックで忘れられない話でした。戦争のせいで、なぜこのような出来事が起こってしまったのか悲しく思います。

僕は、今後、身近な平和活動として「人に思いやりをもって接する」「争わない」「思いやりを持つ」など、相手の立場になって考えていきたいと思っています。差別やいじめなどのない平和な世の中になったらいいと思います。

僕にとって思い出に残った修学旅行になりました。ありがとうございました。



編集後記

本事業報告書を手にとってくださった皆様に、心より感謝申し上げます。この報告書が、平和について考えるきっかけとなることを願っております。

令和7年は戦後80年の節目の年であることから、鎌倉市の平和推進事業では未来を担う子どもたちと共に広島を訪問する事業を始めました。広島は平和の大切さを改めて気づかせてくれる特別な場所です。

平和記念式典では、世界に向け力強く平和への思いが宣言され、式典の厳粛な空気の中で子どもたちを含め、同行職員も大変貴重な経験をしました。その場で目にした多くの方々の祈りや願いに触れ、今ある平和が当たり前ではないこと、守っていくべき大切なものであると感じました。

また、今回参加した子どもたちとは、広島訪問に向けた事前学習から一緒に平和や戦争、原爆について勉強するなどあわせて9日間を共に過ごしましたが、この広島訪問を経て、一回りも二回りも大きく成長したように思います。特に成長を感じた言葉は、「『知っていた』けど『知らなかった』。戦争などによってたくさんの方が苦しんだことは知っていても、被爆した一人ひとりの人生が一瞬でなくなってしまったことは知らなかった。」という言葉でした。

これまで戦争や原爆の被害について、数字でその被害状況を知ることができていましたが、それによって苦しんできた方々一人ひとりの背景まで知ることはできませんでした。その一人ひとりの背景を目にしたことで、知らなかった現実があったことに気づくことができました。

この広島訪問が、子どもたちにとって忘れられない経験となり、今後の生活や学びの中で活かされることを期待しています。

平和は、一人ひとりの心に根付くものです。私たち大人には、次世代にこの思いを継承する責任があります。報告書を通じて皆さんと一緒にその一歩を踏み出せば幸いです。

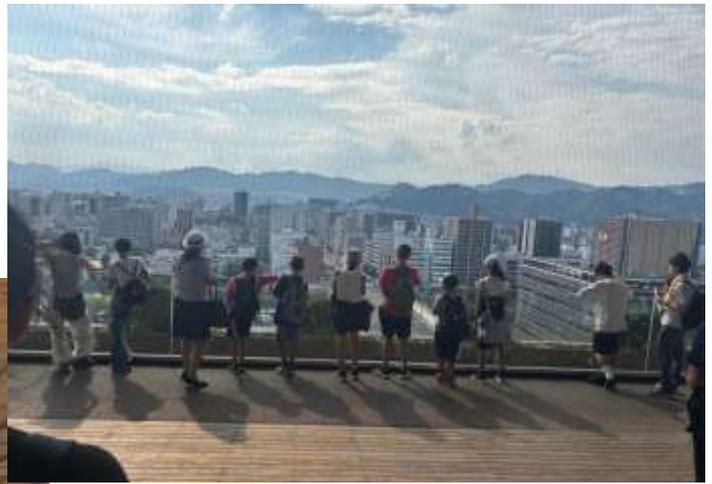
アルバム



灯籠作成の様子
悩みながら一生懸命
書きました。



おりづるタワー
広島市街が一望できる場所



平和記念公園を散策し、原爆ドームや原爆死没者追悼平和祈念館等の見学を行いました



8月6日
平和記念式典の日



8月6日
平和記念式典





真剣なまなざし



修学旅行生の小菅さんが
灯籠流しの順番待ち中
列に並んでいる海外の方に
自分で作ったアンケートを実施



自分たちの願いを乗せた
灯籠を流しました





巖島神社で運命の
おみくじ



大事な
タオルが！



「へいわの学校」をイメージして作成しました。平和が続いていくように
と思いが込められています。



宮島に別れを告げ、
鎌倉に...

厳島神社の鳥居をバック
に記念撮影





広島名物



